



UNITE
FOR
GOOD

国際ロータリー第 2620 地区 甲府北 ロータリークラブ

2025-2026 年度 2687 回例会 8 月 3 日

地区ガバナー 稲葉 雅之 クラブ会長 近藤 徹

本日のプログラム ●会員増強の時間

●会長の時間 近藤 徹 会長

先日、7月27日（日）にZOOMにて、地区の米山記念奨学セミナーが開催され参加いたしました。

セミナーでは、ガバナーほかのご挨拶のあと、基調講演ということで、モンゴル人でのねやま親善大使を務めている愛称「トモ」さんのお話がありました。

トモさんは、かつて、愛知県の大府市にある大府RCの米山奨学生だった方で、元々モンゴルの大学在学中に、大学が提携している日本の大学に留学に来て、米山奨学生になったという方です。その後、日本で勉学に励んで慶應大学の大学院にも進んだ後に起業したという経歴をお持ちです。

トモさんは、米山奨学生として終わった後もロータクトとして活動して、将来はロータリアンとして奨学生のカウンセラーになることが夢であるとおっしゃっておいりました。というのも、自分が米山奨学生として、奨学金を受けて勉強に励むことができたのはロータリークラブのおかげで、それをととても感謝しており、今後は自分が役立つ番だという思いがあるということでありました。

まさに、米山奨学生の事業の一番理想型ともいう結果を出すことができたケースだと思ひます。

この話を聞いて私が感じましたのは、トモさんのように、将来ロータリー活動に貢献してくれるような方は最高ですが、そうでなくても、米山奨学生となったことで、日本という国や日本人に対しての理解を持ってもらひ、友好の精神を持ってもらうこと自体がとても大事なことになるのだらうと思ひます。

先日、参議院議員の通常選挙がありましたが、候補者や政党の主張の中に、単純な一見わかりやすい政策で訴えるものが多く、その中でも外国人問題を取り上げているところも多いように感じました。その内容はともかく、私が思うところは、世の中は「こうすればこうなる」といった単純なもので出来上がっているのではなく、物事はそう簡単に解決しないものではないということです。

例えば、八ヶ岳のふもとの北杜市や長野県になります原村とか川上村は野菜などの農作物の生産が盛んな地域ですが、そこで農業に従事しているのは、ほとんどが日本人でなく外国人です。農業だけでなく工場なども同じで、このように外国人がいなければいい社会になるというのは、まったく的外れの議論でもあるし、人や物が膨大に流れ、それで成り立っている日本は、特定の国との付合ひを排除することも不可能ですし、日本自体が立ちゆかなくなりまひす。

日本もいよいよそういうことが声高に叫ばれるような時代になったなと感じていたところに、先日米山奨学セミナーでの話しを聞いて、真に日本のことを理解してもらひ外国人を育てるというロータリークラブの活動は大きな意義を持つものになっていくに違ひないと思ひた次第です。

当クラブも、現在、米山奨学生として文くんを迎え入れています、今後も、こうした活動を継続していければいいなと改めて感じました。

●2686 回例会（7/30）ニコニコボックス紹介

♡大口

◇トリプル

◎ダブル

赤岡 稲葉ガバナーをお迎えして。今年一年宜敷くお願い致します

小澤 稲葉ガバナー、役員の皆様ようこそ。本日は御指導よろしくお願い致します

河野 稲葉ガバナー様ようこそ

小林 稲葉ガバナー、いよいよ年度が始まりましたね。一年間よろしくご指導ください！

近藤 本日は稲葉ガバナー、小川地区幹事様、藤巻副幹事様ようこそお出でいただきました。
よろしくお願い致します

志村 稲葉ガバナー、皆様ようこそおいで下さいました。1年間よろしくお願い致します

中尾 稲葉ガバナー一行様ようこそお出で下さいました。ご指導よろしくお願い致します

廣瀬 稲葉ガバナーようこそ

堀内 稲葉ガバナー、小川地区幹事様、藤巻副幹事様、よろしくお願い致します

水上 稲葉ガバナー皆様ようこそ。1年間よろしくお願い致します

●2686 回例会報告

ガバナー公式訪問例会 国際ロータリー第 2620 地区 2025-26 年度 ガバナー 稲葉 雅之 様 (伊東西 RC)

本年度ガバナーを拝命しました、伊東西ロータリークラブの稲葉雅之です。

2025-26RI 会長予定だったマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏の予期せぬ辞任発表があり、フランチェスコ・アレツツォ氏（イタリア、ラゲルザ・ロータリークラブ所属）が新たに会長に選ばれました。『UNITE FOR GOOD（よいことのために手を取りあおう）』は会長メッセージとして継承されますので、空間軸と時間軸において、先にロータリアンから手を差し伸べましょう（The First to Act - Rotarians）。

また、『革新』『継続性』『パートナーシップ』が成長のための【不可欠な3つの柱】と位置づけられ、

1.「会員増強の重要性」 2.「継続性の重要性」 3.「パートナーシップの力」 4.「次世代へつなぐロータリー」をポイントとして掲げています。

今回から RI 会長の単年度テーマはメッセージという形に変わり、従来から親しむ『ビジョン声明』が普遍的なテーマのように重きを置かれたということです。

今年の地区大会は12月に伊東市と伊豆市で開催され、国際大会は2026年6月に台北で開催されます。多くのご参加をお待ちしております。

さて、【奉仕、ある視点】と題して、様々な角度からそのあり方を考えていきましょう。

地区の財政的現状として、「米山奨学生 世話クラブ希望数 > 奨学生数」「青少年交換プログラム 派遣人数の低迷」「地区賦課金値上げ」等の課題があり、活動が抑制されている面も見られます。活動資金の改善には収入の増加や支出の減少が必要ですが、会員減少傾向や物価高において、簡単ではありません。

DX や組織のスリム化の推進、「12 のテスト」※の推奨、「クラブ・サポート・ミーティング」を行ったり、発想を変えてみたりと、何とか「奉仕の成果を落とさず効率化を図りたい」ものです。

（視点①）『ロヒンギャ問題』～『身近な平和啓発』

・ミャンマーへの支援件数は多いものの、より深刻とも思われる、迫害され国を追われたロヒンギャ族への支援には、やや及び腰の実態があるようです。奉仕の優先順位を考えさせられます。

・軍事政権によって危険な状態にある現在のミャンマー人たちは、かつてのロヒンギャの人たちの人権を思うことができるだろうか。就労や実習で多くのミャンマー人が来日した今、日本のロータリアンの抱く平和について、共感の輪を広げることはできないでしょうか。

（視点②）『会社でワクチン』『ポリオ根絶あと少し』

・寄付増額 ・周知啓発 ・貢献実感 ・参加基盤拡大 一石四鳥となるか。

（視点③）『重点分野の優先順位』

7つの重点分野をよく見ると、「平和構築と紛争予防」に目が留まります。

他の分野の全てにおいて、「平和でありさえすれば」、奉仕活動は効率よく進み、課題は改善するでしょう。紛争のために十分に活動ができない。

とにかく「紛争のない平和な世界が望まれる」ということです。

<入会してよかった>

「ロータリーの例会は、人生の道場。人づくりの修練の場である」（米山梅吉）

「よいことのために、親睦からの、手を取りあって、ロータリアンから、笑顔の奉仕を、はじめましょう。」

※「12 のテスト」 ①【DEI】②【奉仕効果】③【会員増強】④【真の楽しさ】⑤【奉仕の優先順位】⑥【委員会間連携】
⑦【DX 推進】⑧【寛容の精神】⑨【親睦からの笑顔で奉仕】⑩【ロータリーカード】
⑪【3Y E A R S】⑫【アンチ ハラスメント】



古着 de ワクチン回収袋

会社 de ワクチンマグネットシート